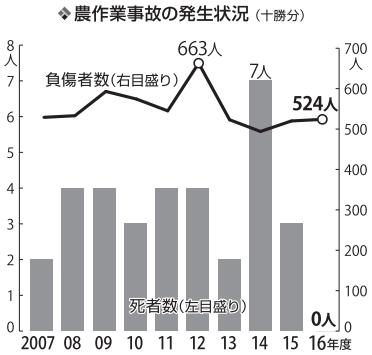
農業ガイド1126号　2017年９月30日
2016年度管内　農作業事故死　初のゼロ　負傷は全道最多524人

北海道農作業安全運動推進本部（札幌）は、2016年度の道内の農作業事故発生状況をまとめた。十勝管内の死亡事故は1977年度の統計開始以来、初めてゼロになった。一方、負傷事故は524人で前年度より４人増え、全道で最も多かった。



管内の死者数は、14年度に７人だったが15年度は半減していた。十勝地区農作業安全運動推進本部（有塚利宣本部長）によると、同本部が設立して統計を始めた1977年度以降、発生が１人だった年はあるが、ゼロは初めて。

意識、安全対策が向上

同本部は、背景に、啓発活動で農家の安全意識が向上していることや、以前に比べて農業機械の安全対策が充実していることが考えられるという。同本部の松田清明事務局長は「ＧＰＳ（全地球測位システム）トラクターを導入した農家では、同じ作業をしても疲労が少なくなったことも影響しているのではないか」と話す。

全道の死亡事故は12件12人（男性11人、女性１人）で、前年より６件６人減った。うち10件が農業機械による事故で、トラクターの下敷きなどが７件、除雪機やコンバインなどを操作中の事故が各１件。地区別で最も多かったのは上川管内の４件４人だった。

管内の負傷事故の524人は、全道で２番目に多いオホーツク管内の415人を大きく上回った。十勝管内の市町村別では、帯広市が71人で最多。芽室町が61人、幕別町と鹿追町が47人で続いた。最も少なかったのは広尾町の２人だった。

牛、馬、豚に関する家畜関係が多く、牛を扱っていた際の事故が186人あった。トラクターやポテトハーベスター、ビートハーベスターなどの農機関係は180人。他には転倒が42人、高所転落が26人と目立った。

全道の負傷事故は前年度より32人多い2195人。地区別で十勝管内は最も多く、死者数を含めて全体の23％が十勝管内で発生した。

農作業の死亡事故は全国で年間約350件発生しており、10万人当たりの死亡事故では建設業の２倍以上。９、10月は道や同本部が秋の農作業安全運動を実施している。

今年度もゼロ続く

今年度も９月中旬まで、管内は死亡事故ゼロが続いている。松田事務局長は「収穫期は農作業事故が多いの安心できない。今年もゼロで営農期を終えてほしい」としていた。

農業ガイド1127号　2017年10月７日
十勝は道内２位122億円　2016年度１ＪＡ平均・農畜産物販売支払高

ＪＡ道中央会は、道内108ＪＡの2016年度の経営状況をまとめた。ＪＡが取り扱う農畜産物の販売支払高は前年度比0.6％増の１兆283億円で、２年連続で１兆円を超えた。地区別の１ＪＡ平均で十勝は同2.4％減の122億円。全道12地区のうち、２番目に高かった。

麦、豆が不振

全道の販売支払高は、台風被害によって麦類が35％減、豆類が31％減、ビートが13％減と畑作が振るわなかったが、金額の大きな生乳生産（補給金含まず）が1.3％増加。全体では59億円の微増となった。

生産資材や生活物資の購買供給高は、2.8％減の137億円減。生産資材が原油価格の低下や供給高の減少で2.6％(114億円)減り、生活物資も6.2％(22億円）減少した。

台風影響　生乳で挽回

地区別で十勝は、販売支払高が2917億円（前年度比3.1％減）で全道12地区で最も多かった。天候不良や台風被害で